

第三百八十一條  
強盜人ヲ傷シ  
タル者ハ無期  
徒刑ニ處シ死  
ハ致シタル者  
ニ死刑ニ處ス

殊ニ之ヲ適用スル司直ノ職ニアルノ士ハ其間ノ認定又非常ニ責任ノ重大ナルモノアレバ罪刑均衡ヲ失シ法ノ精神ヲ誤ラザル様明斷ヲ爲サザル可カラザルモノナリ(舊法三八〇、參照)

第二百四十一條 強盜婦女ヲ強姦シタルトキハ無期又ハ

七年以上ノ懲役ニ處ス因テ婦女ヲ死ニ致シタルトキハ

死刑又ハ無期懲役ニ處ス

本條又加重強盜罪ノ二原因ヲ定メタルモノナリ即チ強盜婦女ヲ強姦シタルモノ而シテ其結果死ニ致シタルモノハ之レ又普通強盜ト殺人及強姦ノ三罪成立スルモノナリト雖モ之等三罪ハ各自ニ審理スルノ必要ナキヲ以テ特ニ強盜強姦罪ナル一ノ罪名ノ下ニ其情狀ニ依リ刑ヲ加重スルモノニシテ別ニ説明セザルモ明カナル所ナリトス本條ノ罪ヲ構成スル特別要件トシテハ強盜ノ目的ヲ以テ被害者ニ向ヒ若クハ被害者ノ家族等ノ婦女ヲ強姦シタルコト或ハ其結果婦女ヲ死ニ致シタルトキハ本罪成立スルモノニシテ前條ト同

第三百八十一條  
強盜婦女  
ヲ強姦シタル  
者ハ無期徒刑  
ニ處ス

ク財物強取ハ必ラズシモ本罪成立ニ必要ナラザルモノト解セザルベカラズ構成要件具備スルトキハ直チニ本條規定ノ處刑ヲ科スベキモノナルヲ以テ事實ノ審理ハ大ニ意ヲ用ユベキモノアリト知ルベシ(舊法三八一、參照)

第二百四十二條 自己ノ財物ト雖モ他人ノ占有ニ屬シ又

ハ公務所ノ命ニ因リ他人ノ看守シタルモノナルトキハ

本章ノ罪ニ付テハ他人ノ財物ト看做ス

本條ハ自己ノ所有物ニ對シテノ盜罪ニ關スル規定ナリ蓋シ本條ノ規定ハ特ニ之ヲ設ケザルトキハ條理上決シテ犯罪トナルベキモノニアラズ然リ而シテ本條ニ於テ特ニ之ヲ處罰セント規定アル所以ノモノハ此場合ニ於ケル犯罪ハ均ク他人ノ利益ヲ侵害スルモノナルヲ以テナリ何者本條ニ掲ケタル如ク他人ノ占有ニ屬シ居ル物件例令ハ質權留置權ノ如キ權利者カ相當ノ理由ニ依リ或ハ自己ノ有スル債權ノ擔保トシ若クハ債權ノ辨濟ヲ受クルマテ其物權ノ上ニ權利ヲ行フコトヲ得ルモノナルヲ以テ之ヲ侵害スルハ恰モ他人



法律ニ於テ開セザル所以ノ理ハ家族ハ家長處分權内ニ屬シ從テ其財産ノ如キモ偏ニ家長ニ專屬シ親族間ニアリテハ互ニ特有ノ財産アルヲ認メザルヲ以テ甲ニ屬スル財産ハ又乙ナル親族ニモ屬スレバ此間ノ盜罪ハ恰モ自己ノ財産ヲ奪取スルト同一ナリサレバ其罪ヲ論セストノ主義ヲ採用シ來リタリト雖モ近代ニ至リ文化漸ク進ミ所謂家族制度ナルモノ漸次個人制度ニ傾クニ至リ法律ハ現ニ親族間相互ニ獨立シタル財産アルヲ認メ我カ民法モ現ニ之ヲ認メ保護シツツアリ茲ニ於テ前段ノ理由ノミニテハ親族相盜ヲ免刑ニスルノ理由トナル能ハズ然ラハ我刑法ハ如何ナル主義ニ因リ本條ヲ設ケタルヤ何レニカ需メザル可カラズ之ニ對スル從來ノ學說ヲ案スルニ極メテ簡短ナルモノナリ曰ク親族間ノ平和ヲ維持スルノ目的ニ出テタルモノニシテ道義若クハ公益ノ規定ニ基クト云フノ外ナシト然レトモ均ク此主義ヲ唱ヘツツ尙左ノ如キ說ヲ爲スモノアリ (a) 親族相盜ヲ無罪トスルハ親族間ニ於ケル平和ヲ破ラザランガ爲メニシテ罪アルモ刑ヲ科セザルモノナリ (b) 之ヲ無罪トスルハ公益ニ基クモノニシテ當ニ刑ヲ科セザルノミナラズ犯罪其者

ヲモ構成セストスルモノ即チ公訴不受理ノ原因タルモノナリトス此ニ說我カ刑法ノ精神ヲ法文ヨリ案スルトキハ蓋シ (b) 說ノ如クナラン何トナレバ被害者ノ犯人タル親族ノ刑ヲ免除スルニ止リ他人カ親族ノ犯人ト共謀シテ罪ヲ犯シタルトキ其他人ハ第二項ニ於テ明ニ之ヲ罰スルコトヲ規定スルヲ以テ見ルモ如何ニ親族間ノ平和ヲ維持センコトニ勉メタルヤヲ知ルヲ得ベシ以上ノ理由ニ依リ親族間ノ竊盜ニ對シテハ之ヲ罰セスト雖モ其親族ハ本條ノ明文ニ依リ又民法上ノ親族全部ヲ指シタルモノニアラズ即チ近親ト云フト雖モ吾人ノ兄弟姊妹ノ財産ヲ奪取シタル場合ノ如キハ同居ノモノナラザル以上ハ其親族ノ告訴アルトキハ明ニ法律ハ之ヲ罰セントスル主義ヲ採リタリ從テ本條ニ掲ケタル親族ハ直系血族即チ民法上ノ六等親内ノ血族及全居ノ親族同居ノ親族ハ其直系タルト傍系タルトヲ問ハザルナリ苟クモ民法親族編ニ於テ親族トスルモノナラバ本條ノ適用ヲ受ケ刑ヲ免除セラルルナリ其他同居セザル親族ナルトキハ告訴ヲ待テ之ヲ論スト定メタルヲ以テ例ヘ同居セザルモ直系血族ノ關係ヲ有スルモノニ對シテノ犯罪ハ又之ヲ罰セ

第三百七十七條  
母其妻子女及  
ハ其同居ノ兄弟  
姉妹ヲ竊取シタル  
者ハ竊盜ニシテ  
以テ論スルノハ  
限ニテ人共ニ  
犯シタル者ハ  
竊盜ヲ以テ論  
スルヲ以テハ  
第三百九十八  
條此節ニ記  
載シタル者第  
三節七十七條  
ニ據ケタルハ  
其罪ヲ論セハ  
ス

第三十六章 窃盜及ヒ強盜ノ罪

五百九十八

ザルヤ明カナリ蓋シ同居セザル直系血族ニアラザル親族間ノ罪ハ親族間ノ  
平和ヲ破ルガ如キ結果ヲ生スルヲ以テ特ニ親告罪ト爲シ親族間ノ相盜ト雖  
モ既ニ被害者ノ一方ガ告訴ヲ爲シ刑ヲ求メントスルガ如キ場合ニアリテハ  
法律ハ尙進シテ其平和ノ維持ニ勉ムルノ必要ナキヲ以テナリ

第二項ノ規定ハ本條ノ初メニ於テ一言シタル如ク親族相盜ヲ罰セザルハ一  
ニ平和ヲ維持シ道義ヲ重シ公益ニ基キ特ニ其刑ヲ免除スルモノナリト雖モ  
之等ノ關係ナキ共犯人ノ一方ハ此理ヲ以テ論スル能ハズ從テ之ヲ規定セザ  
ルトキハ裁判所ニ於テ誤解ノ虞ナキヲ保セザルヲ以テ特ニ明示シタル所以  
ナリ(舊法三七七、三九八参照)

第二百四十五條 本章ノ罪ニ付テハ電氣ハ之ヲ財物ト看

做ス

本條ハ舊刑法以來一個ノ疑問トシテ學說一致セサリシ間案ナリシモ進歩今  
日ノ如キ活社會ニアリテハ民法上ノ物以外ニ尙幾多財産上ノ物ノ性質ヲ備

フル場合多カラシ本條ノ電氣モ亦民法上ノ物ノ内ニハ之ニ相當スル規定ヲ  
發見セスト雖モ盜罪ニ於ケル財物トシテノ電氣ハ必ラスシモ非條理ノ規定  
ニアラサルヘシ即チ電氣ノ竊取ノ如キ往々行ハレアル實例アリ例ヘハ電燈  
會社ト燈火ノ契約ヲ爲シ其契約ニ於テハ二十燭ノ電燈ナルモ點火ニ當リ三  
十燭ノ電球ト取替ヘ使用スルカ如キハ明ニ其差十燭ノ竊取トナルヘシ本條  
ハ此ノ如キ場合ニ備フルニ學說ノ一致ヲ缺キ居リタル爲メニ特ニ一條ヲ設  
ケ從來ノ異說ヲ排斥シ法ノ精神ヲ明カニシタルモノナリトス

第三十七章 詐欺及ヒ恐喝ノ罪

人文發達スルニ從ヒ德義ノ觀念之ニ伴ハサル今日ノ狀態ニ於テハ詐欺恐喝  
等ノ犯罪ハ相當ノ教育ヲ受ケタル者ノ爲メニ往々犯サルルコトアリ如斯ハ  
社會刑事ノ政策上決シテ忽諸ニ付スヘキモノニアラス之レ本章特ニ實質上  
ノ前章ノ竊盜強盜罪ト異ナラサル結果ヲ來ス所謂詐欺盜恐喝盜ヲモ特別ニ  
制裁ヲ定メ以テ犯罪撲滅ノ道ヲ講スルノ必要アリテ本章ノ存置セラレタル

モノトス然リ而シテ本章ニ云フ詐欺若クハ恐喝盜ノ何タルヤニ付テハ各其本條ニ於テ説明ヲ爲スヘシ

第二百四十六條 人ヲ欺罔シテ財物ヲ騙取シタル者ハ十

年以下ノ懲役ニ處ス

前項ノ方法ヲ以テ財産上不法ノ利益ヲ得又ハ他人ヲシ

テ之ヲ得セシメタル者亦同シ

本條ハ詐欺盜ノ罪ニ關スル規定ナリ即チ本條ノ規定ニ依ル時ハ詐欺罪ハ人ヲ欺罔シテ其財物ヲ騙取スルコトヲ要ス從テ本罪ヲ學者カ稱シテ欺罔罪ト云フ又故アルナリ今本條ニ對シ人ヲ欺罔スルトハ如何ナルコトヲ云フヤニ付テ一言セン欺罔トハ口頭ヲ以テスルモ又文書ニ因ルモ其他ノ方法ニ基クモ要ハ人ヲ錯誤ノ状態ニ陷レシムレハ即チ欺罔ノ完全ナルモノト云フヘキナリ又本條ノ所謂騙取スルトハ俗ニカタリ取ルト云フモノニシテ其實實ノ

意思ヨリ出デテ交付スルモ其交付ヲ受クル行爲カ不眞實ナレハ足ルモノトセザル可カラズ今讀者ニ解シ易スカラシメン爲メ一例ヲ舉ケンカ例ヘハ甲助ナル者アリ乙吉ヲ欺罔シテ其財産ヲ奪取セント謀リ乙吉ノ宅ニ至リ其乙吉カ營メル商業ノ得意先キナル丙造ナルモノノ依頼ヲ受ケ何々物件ヲ借り受ケ來レヨトノコトナリ困テ指示ノ物件ヲ渡シ吳レヨト全ク丙造ヨリ依頼ヲ受ケタル如ク乙吉ニ談示シタル故乙吉ハ常ニ自己ノ得意先ナルヲ以テ果シテ其使ノモノト信シ指示ノ物件ヲ渡シタリ此場合ニ於テ甲助ハ全ク丙造ヨリ依頼ヲ受ケタルニアラズシテ始メヨリ乙吉ヲ欺罔シテ財物ヲ騙取セントスルモノナル故丙造ハ毫モ之ヲ知ルニ由ナシ此クノ如キ事實カ即チ欺罔取財ニシテ此ノ場合ノ犯罪ノ客體即チ被害者ハ乙吉ナリ而テ甲助ノ行爲ハ乙吉ヲ欺罔シテ其財物ヲ騙取セントスルモノニシテ丙造ノ名義ヲ知リテ其目的遂行シタルモノト云フベシ如斯實例ハ古手ノ詐欺ナルモ新聞等ニテ往々散見スル所ナリ

以上ノ如クナルヲ以テ本條ノ罪ヲ略言スレバ人ヲ錯誤ニ陷ラシメ其財物ヲ

騙取シタルモノ之ヲ稱シテ欺罔取財ト云フコトヲ得ベシ終リニ一言讀者研究ノ資料ニ供スルモノアリ曰ク本罪ノ未遂罪ハ如何ナル場合ニ成立スルヤ又本罪ト竊盜罪トハ如何ナル點ニ於テ差異アルヤノ點之レナリトス

第一、本罪未遂罪構成ノ場合從來此場合ニ關スル學說ニアリ一ハ曰ク人ヲ欺罔シタル行爲アレバ本罪ノ未遂罪ヲ構成スト二ハ曰ク欺罔ノミニテハ未タ欺罔取財ノ未遂トナルコトナシ欺罔取財ノ未遂罪タルニハ人ヲ欺罔シテ既ニ其財物ヲ騙取スルノ狀態ニ至リ犯人意外ノ障礙舛錯ニ依リ騙取スル能ハザリシ時ナラザレバ未遂罪ト云フ能ハズ右二說ノ中著者ハ後說ヲ以テ正當ノ解釋トナサントスルモノナリ何トナレバ本條ノ罪ハ由來財物騙取ニアルヲ以テ其方法トシテ人ヲ欺罔シタルハ未タ豫備ノ行爲ニシテ實行ニ着手シタリト云フ能ハズ着手シタリト云フ能ハサレバ總則未遂罪ヲ以テ論スルヲ得ス然ルニ前說ニ因ルトキハ苟クモ人ヲ欺罔スレバ最早着手シタルモノト看做サントスルモノナリト雖モ之ハ全ク誤謬ノ見解タルヲ免レザルベシ蓋シ欺罔取財又賊盜ノ一種ナル

ヲ以テ少クトモ其財物騙取ノ狀態ニ至ラサレバ只人ヲ欺罔シタルノミニテハ賊盜罪ノ豫備行爲ニ過キス豫備行爲ヲ罰スルハ特ニ法律ニ明文アル場合ナラサルベカラズ之レ著者カ前說ヲ採ラザル所以ナリ

第二、欺罔取財ト竊盜罪トノ區別ノ標準ニ付テハ從來ノ學者ハ方法ニ異ナル點アルヲ以テ此點ヲ區別ノ標準ト爲サザル可カラズト詳言スレバ欺罔取財ハ被害者ノ承諾ヲ受ケ交付ヲ受クルモノナリト雖モ竊盜罪ハ然ラズ故ニ之ヲ區別ノ標準ト爲サザル可カラズ然レトモ之ヲ條理ニ考フルニ決シテ然ラザルベシ尤モ竊盜罪ニハ承諾ナキハ明瞭ナリト雖モ欺罔取財ニモ又決シテ眞意ノ承諾アルコトナシ何トナレバ其承諾ハ全ク錯誤ニ因レルモノニシテ決シテ正當ニ承諾アリト云フ可カラズ故ニ此ノ區別ハ之ヲ採用スル能ハズ從テ二者ノ區別ハ本條ノ規定ニ依テ爲サザル可カラズ故ニ著者ハ兩者ノ區別ハ法文ニ從フ外ナシト云ハントスルモノナリ法文ヲ見ルニ欺罔取財ノ場合ハ特ニ人ヲ欺罔シテ換言スレハ人ヲ錯誤ニ陥ラシメテ財物奪取ヲ爲サザル可カラザルモ竊盜罪ハ然ラ

第三百九十九條  
人ヲ恐喝シテ財  
物ヲ取シテ又  
類者ハ取シテ  
財ノ以テ取  
以テ取シ  
上ノ以テ取  
罰金十圓以  
ノ四圓以下  
スル者ハ罰  
因テ官私ノ  
書ヲ偽造シ  
ハ増減シ又  
タル者ハ偽  
シタル者ハ  
斷重キニ從  
テ照テ

ズ被害者ヲ錯誤ニ陥ラシムルガ如キ行爲ヲ要セザルヲ以テ兩者ノ區別  
ハ此點ヲ以テ標準ト爲スヲ穩當トセザルベカラザルモノト信ズ然レド  
モ讀者乞フ尙議論ノ餘地アラシキ幸ニ自ラ研鑽アラシムコトヲ

第二項ハ別ニ説明ヲ要セスシテ明カナル所ナラン故ニ更ニ之ヲ贅セス舊法  
三九〇參照)

第二百四十七條 他人ノ爲メ其事務ヲ處理スル者自己若

クハ第三者ノ利益ヲ圖リ又ハ本人ニ損害ヲ加フル目的  
ヲ以テ其任務ニ背キタル行爲ヲ爲シ本人ニ財産上ノ損  
害ヲ加ヘタルトキハ五年以下ノ懲役又ハ千圓以下ノ罰

金ニ處ス

本條ハ代理人カ被代理人ニ損害ヲ加ヘタル場合ニ關スル規定ニシテ實ニ本  
法新設ニ係ル規定ナリトス蓋シ世ノ進運ニ從ヒ往々他人ノ爲メニ或事務ノ

代理處辨ヲ爲シ徒ニ私利ヲ營ムモノ多キヲ以テ之等ノ行爲ヲ防止スル必要  
生シタルカ故ナリ蓋シ本條ノ場合ノ如キハ民事上ノ損害賠償ヲ爲セハ事足  
ルガ如シト雖モ翻テ案スルニ被害者ハ民事訴訟ニ依リ救済ヲ取クルコト能  
ハザルハ今日マテ往々見ル實例ニシテ加之如斯行爲ハ公安ヲ害スルコト盜  
賊罪トモ撰ブ所ナキヲ以テ持ニ此規定ヲ設ケタル所以ナリ

今本條ノ罪ヲ成立スルニハ如何ナル特別要件ヲ必要トスルヤト云フニ(1)犯  
罪ノ主體ハ代理若クハ代理人ナルコト(2)犯罪ノ客體即チ被害者ハ本人又ハ  
法人ナルコト(3)犯人ハ自己若クハ第三者ノ利益ヲ圖ル目的ヲ以テ委任ノ事  
務ニ背キタルコト(4)因テ本人ニ財産上ノ損害ヲ加ヘタルコト(5)惡意アルコ  
トノ五要件ヲ具備セザルベカラズ然ラザレバ本條ノ罪ヲ構成スルコト決シ  
テアラザルナリ而シテ代理人又ハ代表者トハ例ヘバ委任代理若クハ法定代  
理人(後見人ノ如シ)其他商店ノ番頭支配人會社ノ專務取締役及ヒ支配人ノ如  
ク或ハ公益法人ノ理事ノ如キ皆此罪ノ主體トナリ得ベキモノナリ從テ客體  
ハ自ラ明ラカナラン自己若クハ第三者ノ利益ヲ圖ル爲メ任務ニ背キタルト

キハ私利ヲ營ムコトヲ得ルモノニシテ被代理者ノ爲メニ代理ノ行爲ヲ全フセザルモノヲ云フ特ニ惡意アルヲ要スルハ若シ夫レ實際ニ於テハ本人ノ財産上ニ損害ヲ加ヘタリト雖モ正當ノ任務ヲ盡シ尙損害ヲ加ヘタル場合ノ如キ止ムヲ得ザルニ出テタルモノニシテ本條ノ罪トナルベキモノニアラズ蓋シ商業ニハ往々過失等ニ依テ任務ヲ正當ニ盡サズ爲メニ本人ニ損害ヲ生セシムル場合アリト雖モ之等ニモ尙刑法上ノ責任ヲ負ハセントスルハ條理ニ反スルヲ以テナリ以上要之本條ノ罪ヲ構成スルニハ不法ニ自己ノ利益若クハ第三者ノ利益ヲ圖ル目的ヲ以テ其任務ニ背キタル行爲ヲ爲シ以テ本人ニ損害ヲ加ヘタル場合ノミナリト云フベキナリ而シテ此條件ヲ具備シ犯罪成立スルトキハ規定ノ如ク五年以下ノ懲役又ハ千圓以下ノ罰金ニ處セラルルヲ以テ世ノ代理ヲ爲スモノハ大ニ戒心セザル可カラザルモノトス

第二百四十八條 未成年者ノ知慮淺薄又ハ人ノ心神耗弱

ニ乘シテ其財物ヲ交付セシメ又ハ財産上不法ノ利益ヲ

得若クハ他人ヲシテ之ヲ得セシメタル者ハ十年以下ノ懲役ニ處ス

本條ハ知慮完全ナラサル者ヨリ不法ニ財物ノ交付ヲ受ケタル罪ニ關スル規定ナリ抑モ未成年者ノ如キハ未タ知慮淺薄ニシテ往々善惡利害ノ識別心ヲ缺クモノナルヲ以テ我カ民法モ渾テ法律行爲ノ能力ナシトシ之ニ對スル法律行爲ハ常ニ取消シ得ベキモノトセリ又精神耗弱者ノ如キ又同一ナリト云ハザル可カラズ故ニ之等ニ乘シテ財物ヲ交付セシメ不法ニモ財産上ノ利益ヲ得若クハ第三者ヲシテ得セシムルカ如キハ情狀甚タ惡マザル可カラズ情狀既ニ惡ムヘキ行爲ナリトセハ其行爲ノ治安ヲ害スルヤ亦疑ナシ故ニ之等ノ者ニハ相當ノ制裁ヲ加ヘ以テ之レカ防止ノ策ヲ講セサルヘカラス之レ本條ノ規定アル所以ニシテ弱者ヲ保護スル規定ナリ而シテ本罪構成ニ必要ナル特別條件ハ(1)未成年者又ハ精神耗弱ノ人ニ向ヒテ犯罪行爲ヲ行ハルルコトヲ要ス(2)財物ノ交付ヲ受ケ若クハ不法ニ財産上ノ利益ヲ得タル行爲アル



コトヲ要ス此財産上ノ利益ニ付テハ獨リ自己カ受クルノミナラス第三者ヲシテ得セシムルカ如キモ畢竟加害者ノ行爲ノ結果タルニ過キス從テ被害者ニ採リ若クハ社會ニ採リテハ此間ノ關係ヲ區別スルノ必要ナシ從テ第三者ニ得セシメタル場合モ尙同一ニ論スルモノナリ蓋シ弱者ヲ保護スルノ規定ナレバナリ故ニ舊刑法モ其第三百九十一條ニ於テ畧ボ之ト同一ノ規定ヲ設ケタレバ就テ參照セラレベシ

第二百四十九條 人ヲ恐喝シテ財物ヲ交付セシメタル者

八十年以下ノ懲役ニ處ス

前項ノ方法ヲ以テ財産上不法ノ利益ヲ得又ハ他人ヲシ

テ之ヲ得セシメタル者亦同シ

本條ハ舊法ノ所謂恐喝取財ノ場合ヲ規定シタルモノナリ然ルニ舊刑法ノ如キ用語ヲ用非ザル所以ノモノハ蓋シ舊刑法ノ下ニ於テ往々強盜ノ暴行脅迫ト本條ノ場合トノ區別ニ付キ疑ヲ生シタル所ナルヲ以テ本法ハ此ノ疑ヲ法

第三百九十九條  
人ヲ恐喝シテ財物ヲ取  
ハ若クハ社會ニ採リテハ此間ノ關係ヲ區別スルノ必要ナシ從テ第三者ニ得セシメタル場合モ尙同一ニ論スルモノナリ蓋シ弱者ヲ保護スルノ規定ナレバナリ故ニ舊刑法モ其第三百九十一條ニ於テ畧ボ之ト同一ノ規定ヲ設ケタレバ就テ參照セラレベシ

文ノ規定ニ因テ避ケタルモノナリ即チ本法第二百三十六條ニ於テ強盜ノ罪ヲ限定シタルヲ以テ強盜罪成立ニハ必ラズ第二百三十六條ニ示サレタル行爲ヲ以テセザルベカラズ從テ其以外ノ方法即チ未來ノ脅迫所謂無形ノ脅迫ニシテ今ニ如何ナル危害ヲ受クルヤ計ラレズト被害者ヲ畏怖セシメ因テ以テ財物ヲ奪取シタル者ハ渾テ本條ヲ以テ處斷セントス然レトモ本條ニ於テ最モ注意セザル可カラザルハ脅喝シテ財物ヲ交付セシムルヲ要スルヲ以テ被害者ニ抵抗力ヲ失ハシメ其意ニ反シテ財物交付ヲ爲サシメタル場合ナラザルベカラズ然ラザレバ又本條ノ罪ヲ構成スル所ナカラシ本條ノ罪ニ對スル刑期ハ第二百三十五條竊盜ノ刑期ト同一ナルハ稍ヤ穩當ヲ缺クノ嫌ナキ能ハズト雖モ罪狀略ボ同一ナリト認メテ同一刑期ノ下ニ於テ處分セントスルハ實際ノ條理必要ヨリ出テタルモノナランカ

第二項ノ規定ハ第二百三十六條第二項ト異ル所ナシ(舊法三九〇參照)

第二百五十條 本章ノ未遂罪ハ之ヲ罰ス

第三百九十七條此節ニ記載シタル罪ヲ犯シタル者ハ未遂ノ罪トシテ處断スルハ未遂ノ罪ニ照シテ處ス

本條ハ詐欺及恐喝盜ノ未遂罪ハ尙未遂罪トシテ相當科罰ノ必要アリト認め之ヲ罰セントスルモノナレバ別ニ説明ヲ要セサルベシ(舊法三九七參照)

第二百五十一條 本章ノ罪ニハ第二百四十二條、第二百四

十四條及ヒ第二百四十五條ノ規定ヲ準用ス

本條ハ本章ニ掲ケタル罪ハ假令自己ノ財物ト雖モ既ニ他人ノ占有ニ屬シ又ハ公務所ノ命ニ因リ他人ノ看守シタル場合及準財物即チ電氣ヲ欺罔シテ交付ヲ受クルガ如キハ均シク窃盜強盜罪ト撰ブ處ナク亦親族相盜ノ場合ニハ之ヲ罰スルノ必要ナキヲ以テ前章ニ定メラレタル此種ノ場合ニ説キタルト同一理由ノ下ニ本罪ニモ準用セントスル規定ナレバ重テ説明セス就テ參照セラルレバ自カラ釋然タル處アラン

### 第三十八章 横領ノ罪

吾人ハ如何ナル場合ニ於テモ必ラズ自己ノ外他ニ依ラズシテ世ニ處シ能フ

ベキモノニアラズ從テ場合ニ依リテハ自己ニ信用スル他人ニ自己ノ所有物ヲ委托シテ事ヲ處セザル可カラザル場合多カラン而シテ自己ガ其人ヲ信用シテ或ル所有物ヲ依頼スルハ偏ニ其人ニ依リ自己ノ權利ヲ完全ニ行使セントスルモノナリ然ルニ其依頼セル人カ不法ニモ其物件ヲ消費冒認スルガ如キハ社會ノ信用ヲ害スル最モ甚シキ行爲ニシテ決シテ之ヲ放任スベキモノニアラズ之レ羅馬古代ノ法律ヨリ引キ續キ今日ニ至ルマテ其間幾變遷シテ刑罰法制定ノ主義ヲ異ニシタリト雖モ苟クモ法ヲ立ツル國ニ於テ本章規定ノ場合ノ如キ罪ヲ認メザルモノアラザリシ所以ナリ然リ而シテ本刑法カ特ニ新規ニ屬スル法語ヲ用ヒタル所以ハ舊刑法ノ如ク或ハ委托物消費罪若クハ冒認罪等種々ナル區別ヲ爲スハ法典ノ編纂上ニモ又解釋上ニモ往々疑ヲ生シ實際ノ應用ニ頗ル煩雜ヲ極ムル點アリシヲ以テ特ニ之ヲ改メ廣ク百般ノ出來事ヲ箝當シ得ラルル程度ニ修正ヲ加ヘタル所以ナリトス而シテ横領トハ俗ニ横取リスルト云ヒ不法ニ其占有物件ヲ費消シ又ハ冒認販賣シ若クハ自己ノ物ナリトシテ抵當典物等ニスル行爲ヲ云フヤ明カナリ

### 第二百五十二條 自己ノ占有スル他人ノ物ヲ横領シタル

者ハ五年以下ノ懲役ニ處ス

自己ノ物ト雖モ公務所ヨリ保管ヲ命セラレタル場合ニ

於テ之ヲ横領シタル者亦同シ

本條第一項ハ横領罪ノ通則ヲ定メタルモノナリ即チ自己以外ノ他人ノ爲メ占有スル物ヲ横領シタルモノヲ横領罪トシテ處斷セントスルモノナレバナリ而シテ本條ニ於テ單ニ物ト云フヲ以テ動産タルト不動産タルト其他ノ物タルトヲ問ハズ苟クモ價值アル物タル以上ハ本罪構成ノ目的タルヤ疑ヒナシ故ニ本條ノ罪ヲ構成スルニハ左ノ要件ヲ具備スレバ足ル(1)他人ノ爲メ占有スル物タルコト(2)横領ノ事實アルコト(3)惡意アルコトノ三要件ヲ具備セザル可カラズ茲ニ惡意アルコトヲ要スト特ニ掲ケタル所以ハ此種ノ物ニアリテハ往々物ノ種類ニ依リ自己ノ物件ト混同シテ他人ノ物ヲモ所持スルヲ以テ不知不識ノ内ニ他人ノモノヲモ自己ノ物トシテ費消スル等ノ場合ナキ

第三百九十五條 借物ノ返付ニ妨  
害スル者ハ五年  
以下ノ懲役ニ處  
スルコトヲ得  
但シ其ノ罪狀  
ノ輕重ニ依リ  
之ヲ減軽スル  
コトヲ得

ヲ保セス故ニ如斯場合ハ假令事實ニ於テ横領ノ状態ニアリト雖モ未タ以テ犯罪トシテ罰スル能ハス之レ特ニ此條件ヲ必要トスル所以ナリ又横領ノ事實ニ就テハ如何ナル方法手段ニ因ルヲ論セス横領ノ行爲サヘアレハ舊刑法規定ノ如ク他ニ之レヲ販賣交換スルヲ要セス抵當典物ト爲スヲ要セス又費消スルヲ要セス未タ其物件ハ自己ノ手ニ存スル間ト雖モ苟クモ其物件ヲ所有者ニ於テ完全ニ權利ヲ行使スル能ハサラシムレハ足ル彼ノ民法施行後後見人ノ如キハ往々被後見人ノ財産保管ヲ爲ス場合アリ此場合ニ於テ其財産ヲ不法ニモ自己ノ名義ニ爲シ置ク場合ノ如キ横領罪ノ好適例ト云フヘキナリ第二項ノ規定ハ自己ノ所有物ト雖モ公務所ヨリ保管ヲ命セラレタル場合ニアリテハ既ニ其處分權ヲ停止セラレタルモノナリ處分權ヲ停止セラレタルニモ拘ハラス之ヲ横領セントスルハ爲メニ公益ヲ害スルコト甚シキヲ以テ特ニ本條ニ因リ公益維持ニ勉メントス

本條ノ處分ハ彼ノ窃盜罪及ヒ欺罔取財罪等ニ比シ其刑輕キハ之レ眞ノ所有者モ一時ハ犯人ヲ信用シテ自己ノ物ノ占有ヲ委託シタル瑕疵アルト犯人ニ

第三百九十六條ノ所ニ於テモ容易ニシテ往々斯ル慾望心ヲ抱クニ易キヲ以テ之等ノ點ヲ斟酌シテ斯クハ規定セラレタル所以ナリ尙終リニ一言附加スヘキモノアリ本條ノ説明ニ於テ冒認ナル語ヲ用ヒタルハ特ニ他人ノ爲メ占有スル物ヲ自己ノ物ナリト冒認シタル場合ナルコトヲ注意スヘシ彼ノ自己ノ占有内ニアラサル物件ヲ冒認シテ相手方ヲ害セントスル欺罔取財トハ大ニ異ルヲ以テ彼我混同ノ説明ト云ハサレハ幸甚ナリ(舊法三九五、三九六參照)

於テモ特ニ他人ノ所有權内ヨリ奪取スルヨリモ容易ニシテ往々斯ル慾望心ヲ抱クニ易キヲ以テ之等ノ點ヲ斟酌シテ斯クハ規定セラレタル所以ナリ尙終リニ一言附加スヘキモノアリ本條ノ説明ニ於テ冒認ナル語ヲ用ヒタルハ特ニ他人ノ爲メ占有スル物ヲ自己ノ物ナリト冒認シタル場合ナルコトヲ注意スヘシ彼ノ自己ノ占有内ニアラサル物件ヲ冒認シテ相手方ヲ害セントスル欺罔取財トハ大ニ異ルヲ以テ彼我混同ノ説明ト云ハサレハ幸甚ナリ(舊法三九五、三九六參照)

### 第二百五十三條 業務上自己ノ占有スル他人ノ物ヲ横領シタル者ハ一年以上十年以下ノ懲役ニ處ス

本條ハ業務上他人ノ物ヲ占有スル場合ニ於ケル横領罪ニ關スル規定ナリ之レ實ニ本法新設ノ規定ニ係ル一ニシテ時勢ニ從ヒ全ク必要ナル規定ト云フヘキナリ而シテ本條ノ所謂業務上トハ彼ノ倉庫營業者ノ如キ又ハ委託販賣業者ノ如キモノ即チ犯人ノ營業カ常ニ他人ノ物ヲ占有スル場合ノ状態ヲ云

フ其横領罪構成ニ特別ナル要件ハ前條ト同一ナリト雖モ只異ル點ハ犯罪主體即チ犯人ノ業務ノ性質カ常ニ他人ノ爲メ物ヲ占有シ居ル地位ニアルコトヲ要スルノミ而シテ之ヲ前條ニ比シ重罰スル所以ノモノハ背信ノ最モ甚シキモノナルヲ以テ特ニ加重横領罪ノ原因ト爲シタル所以ナリ

### 第二百五十四條 遺失物、漂流物其他占有ヲ離レタル他人ノ物ヲ横領シタル者ハ一年以下ノ懲役又ハ百圓以下ノ

罰金若クハ科料ニ處ス

#### 罰金若クハ科料ニ處ス

本條ハ法定ノ原因ニ依リ他人ノ占有ヲ離レタル物件ヲ横領シタル罪ニ關スル規定ナリ而シテ法定ノ原因トハ遺失漂流其他ノ方法ニ依リ所有者カ現ニ其占有ヲ爲シ居ラザルモノヲ云フ故ニ本條ノ罪ヲ構成スルニハ(1)其目的物ハ遺失物漂流物埋藏物等彼ノ主物不動産債權等ヲ除キタル有體動産ナルコト(2)他人ノ占有ヲ離シタル物件ナルコトヲ知リテ取得スルコト(3)取得シテ其物件ヲ横領スルコトノ三要件ヲ必要トス故ニ例ヘ其物件ヲ取得シタリト

第三百八十五條 漂流ノ物及ヒ拾得テノ物ハ其ノ所有主ニ歸スルモ其ノ所有主ノ不明ナルニシテ其ノ物ノ性質ハ他人ノ所有物ニ對シテ其ノ占有ヲ離レタル物タルコトヲ知リテ自己ノ所有ニ移シタル犯罪ナリトス故ニ苟クモ其物件ヲ盜取ノ意思ナキモ其物ヲ横領スルノ意思アルトキハ本條ノ規定ニ從ヒ之ヲ處斷セザル可カラズ尙本條ニ就テハ舊刑法以來竊盜詐欺盜等トノ關係及ヒ區別ニ就キ紛議錯綜シテ疑問百出シタル處ナルヲ以テ本條ノ下ニ於テモ仔細ニ研究スルトキハ隨分疑問ヲ生スルナキ能ハズト雖モ之等ヲ一々研究スルハ本書ノ目的ニアラサルヲ以テ深ク説明セズ

雖モ相當ノ手續ヲ經テ之ヲ占有者ニ還付スルカ又ハ公務所ニ届ケ出テタルトキハ本罪成立スルモノニアラズ要之本罪ノ性質ハ他人ノ所有物ニ對シテ其所有者ノ占有ヲ離レタル物タルコトヲ知リテ自己ノ所有ニ移シタル犯罪ナリトス故ニ苟クモ其物件ヲ盜取ノ意思ナキモ其物ヲ横領スルノ意思アルトキハ本條ノ規定ニ從ヒ之ヲ處斷セザル可カラズ尙本條ニ就テハ舊刑法以來竊盜詐欺盜等トノ關係及ヒ區別ニ就キ紛議錯綜シテ疑問百出シタル處ナルヲ以テ本條ノ下ニ於テモ仔細ニ研究スルトキハ隨分疑問ヲ生スルナキ能ハズト雖モ之等ヲ一々研究スルハ本書ノ目的ニアラサルヲ以テ深ク説明セズ

(舊法三八五、三八六參照)

### 第二百五十五條 本章ノ罪ニハ第二百四十四條ノ規定ヲ

準用ス

本條ハ親族間ニ對スル免刑法ヲ明定シタル所ナリトス蓋シ本章ノ場合ニ於テ其親族間ノ行爲ニ止マルトキハ深ク刑法カ立入りテ之ヲ論センカ或ハ爲

メニ親族間ノ平和ヲ維持スル能ハズ人間最高ノ快樂タル一家團樂ノ愉快ヲ滅盡スルガ如キハ法ノ決シテ望マサル所ナルヲ以テ特ニ第二百四十四條ヲ適用セントスル所以ナリ

### 第三十九章 贓物ニ關スル罪

本罪ヲ理論上ニ問フトキハ彼ノ盜賊罪若クハ横領罪等ノ事後ノ從犯ノ如ク見ユルヲ以テ歐洲諸國ニ於テハ往々之ヲ事後ノ從犯トシテ罰シ來ルモノアリト雖モ之ヲ特別ノ一罪ト爲シタルハ舊刑法ニ於テモ又同一ナリ然リ而シテ之ヲ事後ノ從犯タリトノ主義ヲ採ラザル立法ノ眞意ハ容易ニ窺フ能ハズト雖モ本法規定全體ノ精神ヨリ案スルトキハ又故アルヲ察スルニ難カラズ何トナレバ本條ノ罪ト直接間接ニ大關係ヲ有スル前三章ノ罪ヲ見ルトキハ何レモ奪取横領ノ物件ヲ犯人ガ現實ニ握有スルニ因リ直ニ犯罪成立スルモノニシテ其物ノ處分如何ヲマテ包含セザルヲ以テ從テ現實ニ犯人カ他人ノ所有物件ヲ自己ノ占有内ニ移シ終リタル後ノ從犯ヲ認ムル必要ナシ之レ本

章ニ於テ特別ノ一罪ヲ認メタル所以ナリトス

第二百五十六條 贓物ヲ收受シタル者ハ三年以下ノ懲役ニ處ス

贓物ノ運搬、寄藏、故買又ハ牙保ヲ爲シタル者ハ十年以下ノ懲役及ヒ千圓以下ノ罰金ニ處ス

本條ハ贓物收受ニ關スル規定ナリ所謂贓物收受トハ如何ナルコトヲ云フヤ案スルニ前三章ニ規定アル犯罪即チ盜賊ニ因テ得タル物件又ハ横領罪ニ因テ得タル物件ヲ更ニ領得シタル行爲ヲ云フヤ疑ナシ故ニ本條ノ罪ヲ構成スルニハ(1)贓物ナルコト(2)贓物ナルコトヲ知リタルコト(3)知リテ而シテ之ヲ收受シタルコトノ三條ヲ必要トス

(1)贓物トハ前屢々説明シタル如ク犯罪ニ因テ得タル物ヲ云フヤ明ナリ例ヘハ竊盜ノ場合ニ於テ竊盜犯人カ其竊盜ナル行爲ニ因リ他人ノ所有物ヲ奪取シ之ヲ自己ノ占有内ニ移轉シ所有シ居ル物件ノ如シ

(2)贓物ナルコトヲ知リタルコトヲ要スル所以ハ若シ夫レ之ヲ知ルヲ得ザルトキハ素ヨリ惡意アルニアラズ惡意ナケレバ罪トナラザルナリ

(3)知リテ而シテ其物ヲ收受シタルコトヲ要スル所以ハ蓋シ如何ニ贓物ナルコトヲ知ルモ之ヲ收受セザルトキハ又以テ本罪成立スルコトナケレバナリ

以上要スルニ本條ノ罪ハ他人ノ犯罪行爲ニ因リテ得タル物件ナルコトヲ知リテ自己カ其犯人及犯人以外ノ人ヨリスルモノノ手ヨリ收受シタルトキハ其收受ノ方法ノ如何ヲ問ハズ本條ノ規定ニ因リ處斷セラルベキモノトス  
第二項ノ規定ハ犯人カ其贓物ヲ得タル犯人タルコトヲ知リテ其物ヲ運搬シ或ハ寄藏シ故買シ若クハ牙保シタル者ニ對スル處分方法ナリ而シテ前項ノ規定ト異ナルハ單ニ物件ヲ收受シタルトハ異ナリ其情至テ重キ點ニアリ即チ本項ノ贓物タルコトヲ知リテ運搬スルカ如キハ盜取者ト殆ト撰フ所ナク單ニ盜取犯人ヲ補助スルノミナラズ往々其間ニ利益ヲ得ントスルモノ多ケレバナリ又寄藏スルトハ盜取犯人カ携帶スル贓物ヲ其依頼ニ應ジテ隱匿ス

第三百九十九條 強盗ノ  
物ヲ知テハ寄附シ  
ケルハ若シハ寄附  
買シテハ若シハ寄  
保シテハ若シハ寄  
三者ハ一年以上  
禁錮ニ處スルヲ  
以テ罰ス  
附以テ罰金十圓  
以上ノ罰金ニ處  
第百條 前  
條ノ罪ハ六月  
以上二年以下  
ノ監禁ニ付ス

ルコトヲ云フ例ハ竊盜犯人カ奪取シタル物件ヲ自己カ携帶シ居ルトキハ直ニ發覺セラレルコトヲ恐レ之ヲ第三者ニ意ヲ含メテ隱匿方ヲ依頼シタリ然ルニ被依頼者ハ直ニ之ヲ受托シ以テ其物件ヲ藏匿シタル場合ノ如キハ適切ノ例ト云フベキナリ故買トハ情ヲ知リテ其物ヲ買取り以テ利益ヲ得トスルモノニシテ之等ノ行爲ハ尤モ憎ムベキモノトス何者ハ如斯故買者アルヲ以テ盜罪犯人ノ絶ユルコトナキニ至ルヲ以テナリ若シ夫レ贓物ヲ故買スル者アラザランカ如何ニ奸惡ナル犯人ト雖モ奪取ノ物件ヲ他ニ捌キテ暴利ヲ得ル能ハズ利ヲ得ルニアラザランカ何ヲ苦デ特ニ國法ヲ犯ス者アラン之レ此種ノ犯人ハ尤モ憎ムベキ性質ニ居ルモノト云フ所以ナリ牙保又然リ牙保トハ奪取犯人ト故買者又ハ其他ノ者ノ間ニ介在シテ贓物ヲ犯人ノ手ヨリ他人ニ引渡スマテノ媒介ヲ爲スモノニシテ故買者ト同ク又尤モ嫌忌スベキ犯罪トス以上ノ如クナルヲ以テ本項ハ特ニ其刑ヲ加重シテ豫メ防止ノ策ヲ講セントスル所以ナリ(舊法三九九、四〇〇、參照)

### 第二百五十七條 直系血族、配偶者、同居ノ親族又ハ家族及

ヒ此等ノ者ノ配偶者ノ間ニ前條ノ罪ヲ犯シタル者ハ其ノ刑ヲ免除ス

親族又ハ家族ニ非サル共犯ニ付テハ前項ノ例ヲ用ヒス

本條立法ノ趣旨ハ彼ノ罪人隱匿及證據湮滅ノ章ニ於テ親族間ノ罪ニ付テハ特ニ刑ヲ免除スルト同ク本條モ又人情道義ノ然ラシムル處トシテ特ニ其刑ヲ免除スル所以ノ外他ニ深キ理由アルニアラズ

### 第四十章 毀棄及ヒ隱匿ノ罪

由來吾人カ其所有物件ヲ徒ニ毀損スル既ニ甚シキ不經濟ノ行爲ト云ハザル可カラズ然ルニ本章記載ノ罪ノ如キ特ニ他人ノ利益ヲ侵害スル意思ヲ以テ強テ他人ノ所有財物若クハ自己ノ物件ト雖モ既ニ所有權ヲ限定セラレ若クハ所有行使ヲ停止セラレ居ル財物ヲ毀棄隱匿スルガ如キハ公安ヲ害スル

コト甚シ之レ本章ニ於テ特ニ此場合ニ於ケル制裁ヲ設ケ以テ犯罪ヲ未發ニ防止シ又再犯ヲ豫防セントスル所以ナリ

第二百五十八條 公務所ノ用ニ供スル文書ヲ毀棄シタル者ハ三月以上七年以下ノ懲役ニ處ス

本條ハ公文書毀棄ニ關スル規定ナリ公務所ノ用ニ供スル文書ヲ毀棄スル目的那邊ニアルヲ論セス苟クモ公務ニ從事スル處ニ於テ作製シ若クハ其用ニ供スル文書ハ何レモ國家ノ生存維持ニ必要ナル物件ナリ然ルニ之ヲ故ナク毀棄スルカ如キハ決シテ默認スベキモノニアラズ之レ本條ヲ設ケテ其制裁ヲ科セントスルモノナリ而シテ公務所ノ用ニ供スル文書トハ公務所即チ官署公署其他ノ役員ノ執務スル爲メ集合スル所ニ保管シアル文書ニシテ公務ニ必要ナル文書ヲ云フヤ疑ナカラン故ニ本條ノ罪ヲ構成スルニ必要ナル條件ハ(1)公務所ノ文書ナルコト(2)其文書ハ必要ナルモノナルコト(3)惡意アルコト蓋シ以上ノ三條件ヲ必要トスル所以ノモノハ他ナシ若シ夫レ公務所以

第二百二十五條 公務所ノ用ニ供スル文書ヲ毀棄シタル者ハ三月以上七年以下ノ懲役ニ處ス  
第二百二十六條 公務所ノ用ニ供スル文書ヲ毀棄シタル者ハ三月以上七年以下ノ懲役ニ處ス  
第二百二十七條 公務所ノ用ニ供スル文書ヲ毀棄シタル者ハ三月以上七年以下ノ懲役ニ處ス  
第二百二十八條 公務所ノ用ニ供スル文書ヲ毀棄シタル者ハ三月以上七年以下ノ懲役ニ處ス  
第二百二十九條 公務所ノ用ニ供スル文書ヲ毀棄シタル者ハ三月以上七年以下ノ懲役ニ處ス

外ノ處ノ文書ナルトキハ他ノ罪ヲ構成スルハ勿論ナリト雖モ本條ノ罪ヲ構成スルコトナシ又公務所ニ必要ナル文書ニアラザルトキハ其波及スル所ノ弊害ガ本條ノ場合ノ如クナラザルヲ以テ本條ノ如キ重キ刑ヲ科スルノ必要ナケレバナリ又公務所ノ文書ナリト雖モ公務ニ必要ナキ文書ノ如キハ素ヨリ反古ナルヲ以テ犯罪ノ目的物タルコトヲ得ザルナリ又惡意アリテ毀棄スルアラサレハ行政上ノ處分ハ免レサランモ決シテ刑法上ノ責任ヲ負ハスベキモノニアラズ本條ハ毀棄ノ目的那邊ニアルヲ問ハザルヲ以テ自己カ他ノ犯罪ノ證據ヲ湮滅スル爲メナルト單ニ公務所ノ利益ヲ侵害スルノ目的ニ出テタルトヲ問ハス前段各種ノ條件ヲ備ヘタルトキハ加害者ノ公務者ノ公務員タルト其他ノモノタルトヲ問ハサルナリ(舊法二〇三、二〇三、二〇五、參照)

第二百五十九條 權利義務ニ關スル他人ノ文書ヲ毀棄シタル者ハ五年以下ノ懲役ニ處ス

本條ハ私文書毀棄罪ニ關スル規定ナリ本條ノ罪トシテ罰スルニハ其毀棄シ



第四百二十四條ノ權利ハ  
條人ノ關スル  
義務ヲ關スル  
權利ノ毀棄  
ハ二年以上  
減罪シタル  
者ニ對シテ  
以テ之ニ  
罰金十圓以  
下ニ處スル  
ノ刑ヲ付ス

タル文書カ權利義務ニ關スル文書ナルコトヲ要ス故ニ法文明示以外ノ文書  
ナルトキハ本條ノ罪ヲ構成スルコトナシ蓋シ吾人ノ權利義務ニ關スル文書  
ヲ毀棄センカ爲メニ權利義務ヲ證明スル能ハズ證明スル能ハサラシカ途ニ  
ハ重大ナル利害ニ關係ヲ及ホスモノナルカ故ニ法律ハ充分之ヲ保護セサル  
可カラズ蓋シ吾人ノ利害ハ延テ國家社會ノ利害ニ及ホスモノナレバナリ(舊  
法四二四參照)

第二百六十條 他人ノ建造物又ハ艦船ヲ損壞シタル者ハ

五年以下ノ懲役ニ處ス因テ人ヲ死傷ニ致シタル者ハ傷

害ノ罪ニ比較シ重キニ從テ處斷ス

本條ハ建造物及艦船ヲ損壞シタル罪ニ關スル規定ナリ蓋シ本條ノ場合ハ有  
形ニ他人ノ利益ヲ害スルコト尤モ甚シキ罪ナリトス本條ノ罪ヲ構成スルニ  
ハ

第一犯罪ノ物件ハ他人ノ建物及ヒ艦船ナルコト

第二損壞シタル行為アルコト

第一ノ場合ハ法文明カニ斯ク規定スルヲ以テ此條件ヲ必要トスルヤ明カナ  
リ而シテ他人ノ建造物トハ住居スル家ナルト財產ヲ藏スル倉庫土藏ノ如キ  
モノナルト薪材等ヲ收容シ置ク小屋ノ如キ納屋ノ如キ其他裝飾等ノ爲メニ  
建設セル物件ナルトヲ問ハス苟クモ人工ヲ加ヘテ建設シタルモノナレバ足  
ル艦船トハ大洋ニ浮ベル蒸氣船ノ如キ機關ヲ以テ運轉スルモノナルト風力  
ヲ以テ漕キ出ス帆船ナルト人力ヲ以テスル小舟ナルトヲ論ヒズ水面ニ浮ベ  
ル財物運搬ノ用ニ供スル物或ハ娛樂ノ爲メニ要スルモノナレバ本條ノ目的  
物タルニ支障ナシ

第二ノ毀損ノ行為アルトハ之レ又犯罪ノ性質上當然ノ條件ニシテ若シ夫レ  
此條件ヲ缺クトキハ未タ以テ犯罪成立シタリト云フヲ得ス之ニ反シテ損壞  
ノ行為アルトキハ如何ナル手段ニ出テタルヲ論セス苟クモ一般犯罪ニ必要  
ナル條件トシテ惡意ガ毀損ニ伴フトキハ本罪構成ニ缺クル點ナシトス以上

ノ特別要件具備シテ犯罪構成シタルトキハ五年以下ノ懲役ニ處スベキモノナリト雖モ其毀棄ノ結果人ヲ死傷ニ致シタル時ニアリテハ例ヘ犯人ハ傷害ノ罪ヲ侵スノ意ナシト雖モ犯人ノ不法行為ニ因リ死傷ノ結果ヲ出シタルモノナルヲ以テ本條ノ規定ト傷害罪トヲ比較シテ其重キ刑ヲ科セントス蓋シ至當ノ規定ト云フベキナリ(舊法四一七、參照)

第二百六十一條 前三條ニ記載シタル以外ノ物ヲ損壞又

ハ傷害シタル者ハ三年以下ノ懲役又ハ五百圓以下ノ罰

金若クハ科料ニ處ス

本條ハ前三條ニ記載セラレタル以外ノ物其動産タルト不動産タルトヲ問ハス渾テ前三條以外ノ物ヲ損壞又ハ傷害シタルモノニ對スル處分方法ヲ定メタルモノニシテ極メテ廣キ規定ナリトス蓋シ舊法ニ於テハ各種ノ物ヲ列記的ニ規定シ其處分方法ヲ異ニシタリト雖モ夫レ等ハ管ニ司法ノ職ニアルモ

第四百十七條 毀棄ノ罪ハ其ノ結果人ヲ死傷ニ致シタル時ニアリテハ例ヘ犯人ハ傷害ノ罪ヲ侵スノ意ナシト雖モ犯人ノ不法行為ニ因リ死傷ノ結果ヲ出シタルモノナルヲ以テ本條ノ規定ト傷害罪トヲ比較シテ其重キ刑ヲ科セントス蓋シ至當ノ規定ト云フベキナリ(舊法四一七、參照)

第四百十八條 毀棄ノ罪ハ其ノ結果人ヲ死傷ニ致シタル時ニアリテハ例ヘ犯人ハ傷害ノ罪ヲ侵スノ意ナシト雖モ犯人ノ不法行為ニ因リ死傷ノ結果ヲ出シタルモノナルヲ以テ本條ノ規定ト傷害罪トヲ比較シテ其重キ刑ヲ科セントス蓋シ至當ノ規定ト云フベキナリ(舊法四一七、參照)

其ノ他ノ物ニ對シテハ例ヘ犯人ハ傷害ノ罪ヲ侵スノ意ナシト雖モ犯人ノ不法行為ニ因リ死傷ノ結果ヲ出シタルモノナルヲ以テ本條ノ規定ト傷害罪トヲ比較シテ其重キ刑ヲ科セントス蓋シ至當ノ規定ト云フベキナリ(舊法四一七、參照)

ノヲ羈束スルノミナラズ文化急進立法者ノ豫想セザル物ノ存在シ來ルヲ保シ難キヲ以テ本法ハ之等ノ場合ニ適應セシムル爲メ包括的規定ヲ設ケタルモノニシテ文明國立法ノ體裁ヲ備ヘタルモノト云フヘキナリ而シテ本條ノ罪ヲ構成スルニハ前三條ニ規定セラレタル以外ノモノナルトキハ假令動物タルト植物タルト其他物理學上ノ物タルト法理上ノモノタルヲ論セス之ヲ損壞シ又ハ傷害シタルトキハ渾テ本條ニ因テ其責任ヲ問ハントスルモノナリ(舊法四一八乃至四二三、參照)

第二百六十二條 自己ノ物ト雖モ差押ヲ受ケ、物權ヲ負擔

シ又ハ賃貸シタルモノヲ損壞又ハ傷害シタルトキハ前

三條ノ例ニ依ル

本條ハ自己ノ所有財物ニ對スル規定ナリトス即チ自己ノ物ト雖モ既ニ差押ヲ受ケ又ハ他人ニ物權ヲ設定シ或ハ賃貸シ若クハ保險ニ付シタル物ノ如キ

下ノ罰金ヲ附  
加ス前條ニ三  
條シタル以外  
ノ家ヲ殺シ以  
タル者ハ二回  
以上ノ罰金ニ  
下ノ罰金ニ處  
ス但被書者ノ  
告訴ヲ待テ其  
罪ヲ論ス

ハ何レモ所有權ノ完全ノ行使ヲ制限セルモノナリ殊ニ保險ニ付シタル物ノ如キハ善良ナル管理者ノ注意ヲ以テ常ニ擁護セサル可カラザルノ義務アルモノナリ之等ノ物ヲ不法ニモ損壞シ或ハ傷害スルガ如キハ又他人ノ物ニ對スル犯罪ト情狀毫モ異ナル所ナシ之レ特ニ本條ヲ設ケテ其防止ヲ謀ル所以ナリ若シ夫レ本條ノ規定ナキトキハ所有權行使ノ當然ノ權利トシ損壞傷害等ハ法律ノ問フ所ニアラズトシテ爲メニ他人ノ利益ヲ害スルコト甚シキニ至ルヲ以テ斯ク規定シタル所以ナリトス

第二百六十三條 他人ノ信書ヲ隱匿シタル者ハ六月以下

ノ懲役若クハ禁錮又ハ五十圓以下ノ罰金若クハ科料ニ處ス

本條ハ信書隱匿罪ノ制裁ヲ定メタル法條ナリ即チ他人ノ信書ヲ隱匿スルトキハ其目的ノ如何ヲ問ハズ本罪構成ス然レトモ彼ノ友人間等ニ於テ行ハル

ル惡意ナクシテ戯レニ隱匿シタル場合ノ如キハ一般ノ犯罪ト同シク不論罪ナリ故ニ本條ノ罪ヲ構成スルニハ不正ニ他人ノ信書ヲ隱匿スル行爲ナカルベカラズ而シテ不正トハ從來屢々説キタル如ク權利ナクシテ且ツ他人ヲ害スル意思ヲ以テト云フノ義ナリ故ニ本罪構成ニハ亦少クトモ他人ヲ害スル意思ナカラザルベカラズ他人ヲ害スル意思ヲ以テ他人ノ信書ヲ隱匿スルコトヲ要ス而シテ本條ニ於ケル信書トハ第十三章第三百三十四條ニ説キタルト同一ノ効力ヲ有スル物件ヲ云フ此物件ヲ隱匿スルトハ毀棄汚損スルト異ナリ其儘信書ノ受信人若クハ發信人ノ發見シ得ザル程度ニ包藏スルコトヲ云フ故ニ毀棄開緘等トハ全ク其性質ヲ異ニス

此罪ハ本法カ新タニ設ケタル罪名ニシテ從來特ニ此ノ規定ナカリシト雖モ世ノ進歩ト共ニ此ノ種ノ行爲カ一般人ニ危害ヲ及ホスコト少カラザルニ至ルベク亦之レカ爲メ吾人ノ財産權名譽權其他凡テノ權利ヲ侵害セラルルコト多キニ至ルベキ性質ヲ有スルカ故ニ特ニ本條ノ規定ヲ要セシ所以ナリトス

第二百六十四條 第二百五十九條 第二百六十一條及ヒ前條ノ罪ハ告訴ヲ待テ之ヲ論ス

本條ハ私文書毀棄及二百六十一條ノ罪並ニ信書隱匿罪ハ凡テ被害者ノ告訴ヲ起訴要件ト爲スヘク定メタル法條ナリ蓋シ私文書ノ毀棄其他本條ニ規定セラレタル場合ノ犯罪ハ公益關係ト云フヨリモ寧ロ個人ノ利害ニ直接影響ヲ及ホスヘキ性質ノ者ナルカ故ニ斯ル犯罪ハ犯罪ノ結果被害者カ受ケタル損害ニ重キヲ置クヲ可トセサルヘカラス何者所定ノ犯罪アルモ爲メニ被害者利益關係ニ何等ノ影響ヲ及ホササルトキハ社會ハ進デ其犯人ヲ罰スルノ必要ナシ加害者ノ行爲カ罰スヘキモノナルヤ罰セサルモノナルヤハ偏ニ判官ノ職責ナリト雖モ其以前ニ於テ先ツ被害者ノ被害程度ヲ知ルノ要アルモノハ利益關係ニアリテハ概テ直接侵害セラレタル者ニアラサレハ之ヲ知ルコト困難ナリ故ニ斯クノ如キ場合ニハ法律ハ之ヲ親告罪トス本條ノ規定亦此ノ告訴ヲ待テ始メテ論セントスルモノニシテ所謂檢事ノ起訴權ニ制限ヲ

置キタル犯罪上ノ一ナリトス親告罪ノ如何ナルモノナルヤニ付テハ從來屢々説明シタルヲ以テ茲ニ改メテ贅セス

新刑法要說(終)

明治四十一年十月十四日印刷  
明治四十一年十月十七日發行

新刑法要說  
定價 金壹圓五拾錢



著者 彦 阪 秀

發行者 金港堂書籍株式會社

東京市日本橋區本町三丁目十七番地

代表者社長 原 亮 三 郎

印刷者 佐 久 間 衡 治

東京市京橋區西紺屋町二十六番七番地

印刷所 株式會社 秀 英 舍

東京市京橋區西紺屋町二十六番七番地

發賣所

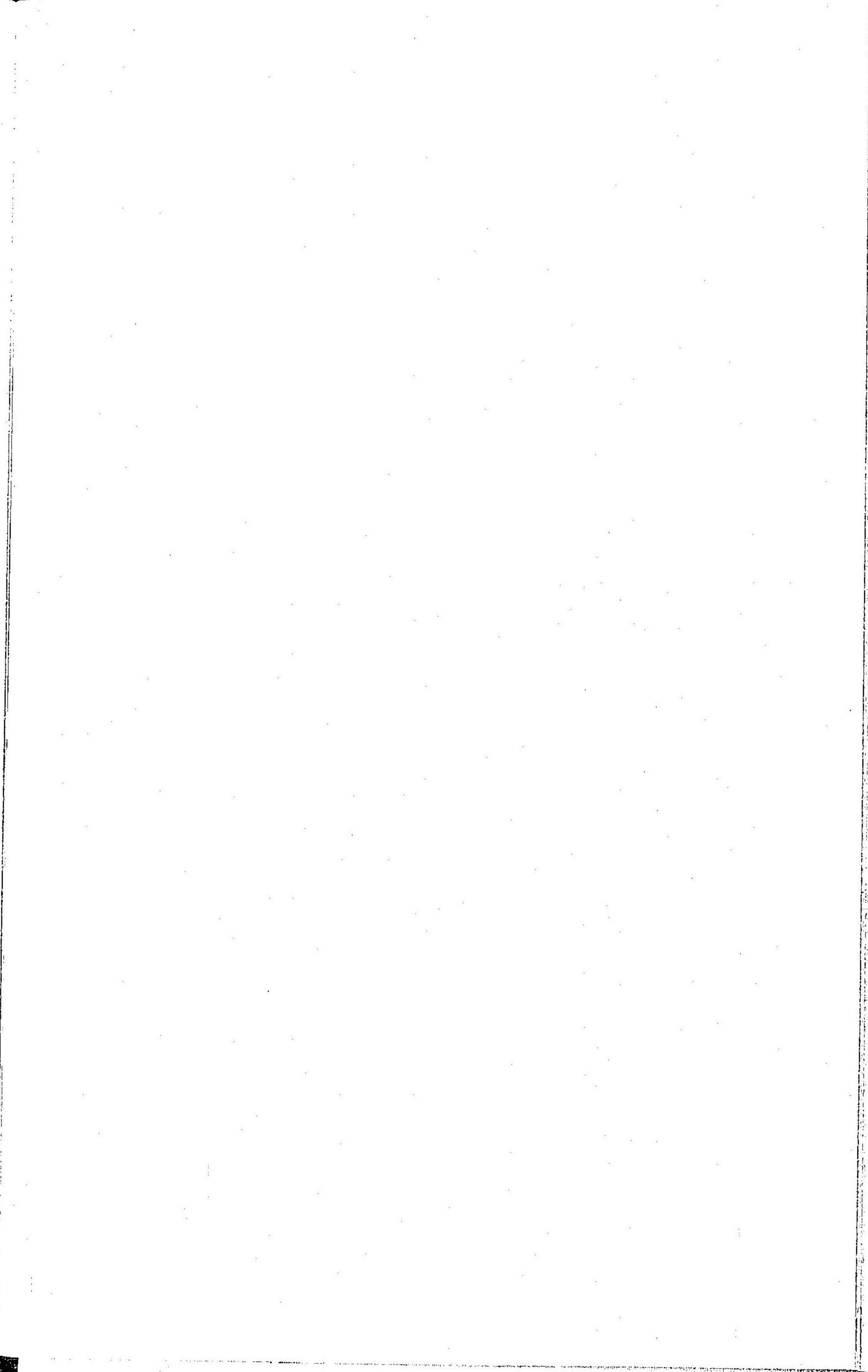
東京市日本橋區本町三丁目

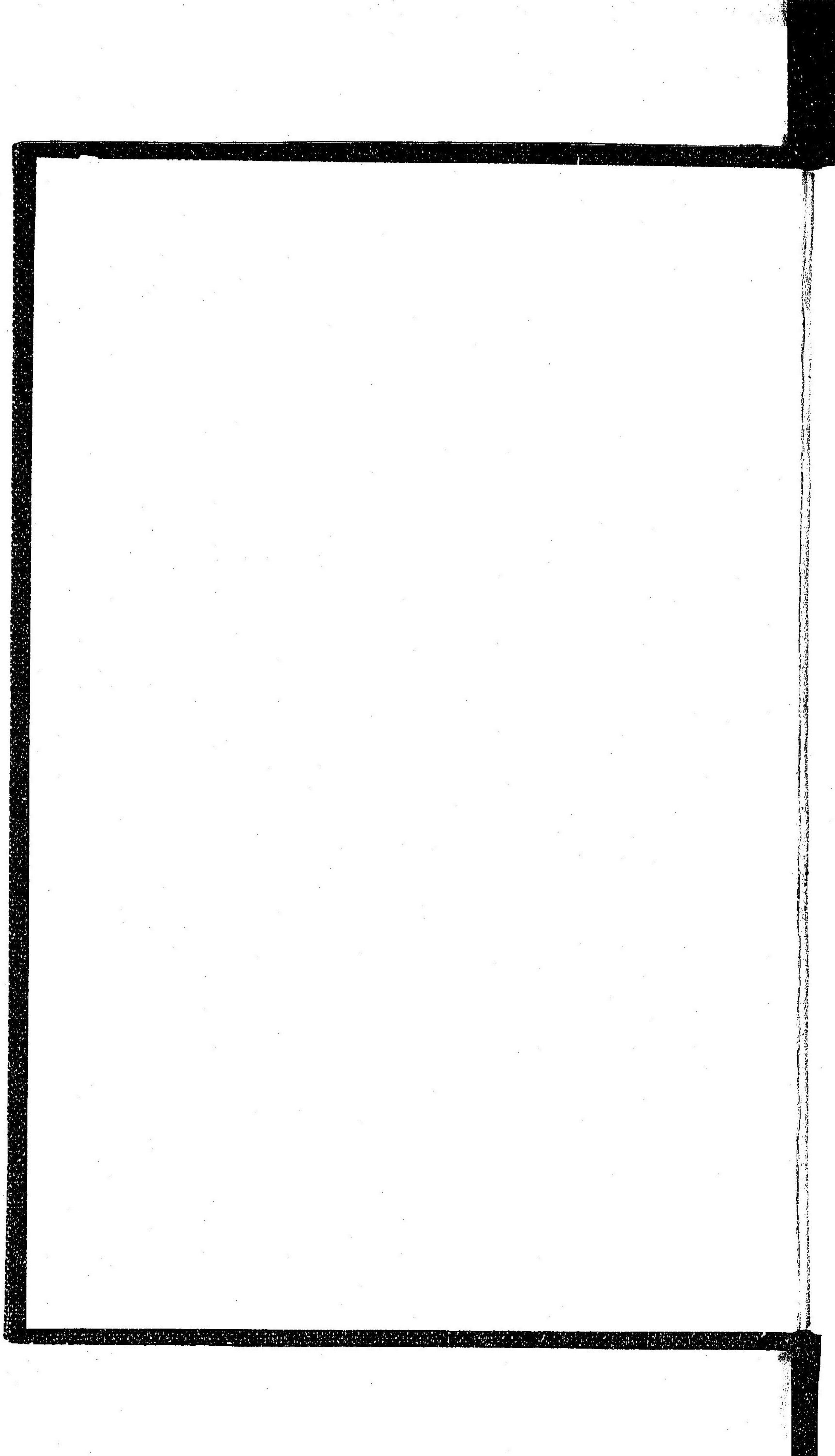
振替貯金口座  
八八一五番

金港堂書籍株式會社

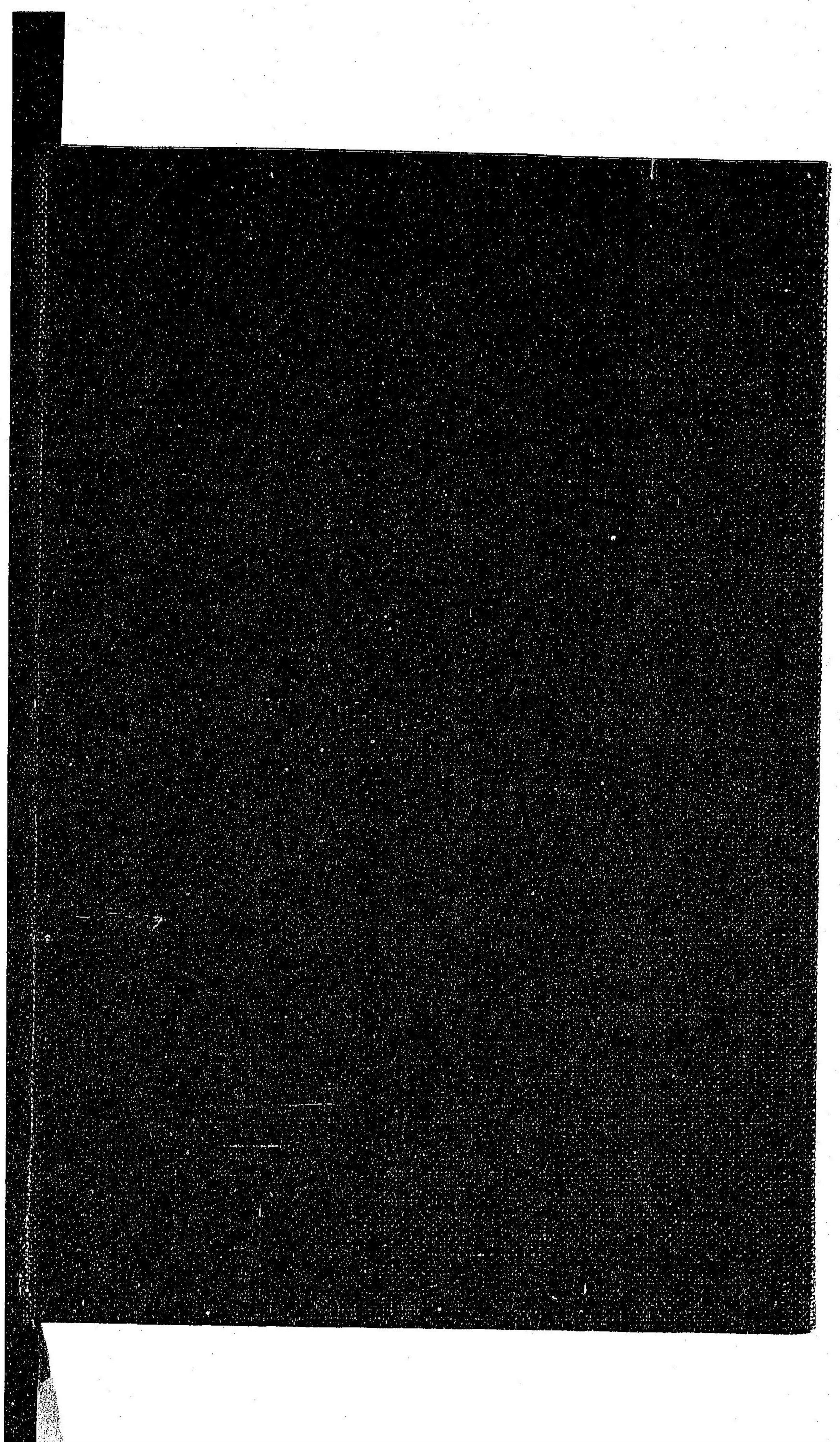
1-675

1-675  
1-675  
1-675  
1-675  
1-675









91  
175

036065-000-6

91-175

新刑法要説

彦阪 秀/著

M41

BBP-0693



